

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏 名	T.K	学部・学科	国際教養学部
学 年	4	派遣国	イタリア
派遣大学	ベネチア大学		
期 間	2024 年 9 月 1 日～2025 年 7 月 31 日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮 / 学外の学生寮 / アパート / その他					
部屋	個室 / 2 人部屋 / 3 人部屋 / その他					
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○					
	トイレ	◎	シャワー	◎	洗面所	○
	キッチン	◎	冷暖房	○	冷蔵庫	◎
滞在費	約 17,3000 円 *1 ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	水上バスで、約 30 分 *大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先 2 の内容を追加してください。

2. 日常生活

(1) 1 ヶ月の生活費

項 目	金 額	内 訳
食費	50,000 円	パスタ、野菜、豚肉等
学用品購入費	10,000 円	大学で使う教科書
交通費	4,000 円	水上バスの定期券
交際費	30,000 円	友達との飲食
その他	81,000 円	寮の賃貸費

合計

17,3000 円

*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

ベネチア島内は、深夜も安全であり、女性も歩いていてもそこまで問題はないと思います。一方で、メストレは、駅周辺など一部ドラックディーラーがさまよっており、去年女性が刺殺されたりと物騒なので、注意が必要です。

3. 海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海学 / その他		
加入期間	10 ヶ月間	保険料	103,930 円

4. 滞在都市についての情報

滞在都市／町（ベネチア）

ベネチアは、イタリアでも屈指の観光地の一つであり、水の都として有名である。例年、水害や観光公害などが問題となっており、移動式堤防「モーゼ」や入島税の試験的開始など、対策が行われている。毎年春に行われる仮面舞踏会や周辺の島で行われる映画祭は、この町が国際的な舞台の一つとして歴史が多く含まれることを感じさせる。日常生活では、アペリティーボ（食前酒）があり、アペロール・カンパリ・ウーゴなど種類の異なる様々な味を楽しむことができる。

【学業編】

1. 大学情報

大学	ベネチア大学	所在地	ベネチア
最寄空港	マルコ・ポーロ空港	空港からの距離	バスで 40 分
空港⇄大学	マルコポーロ空港→ピアッツァレローマ（バスで 40 分）→ベネチア大学（言語キャンパス 徒歩で 15 分） *移動手段		
学生数	約 20,000 万人	留学生数	1000 人
学部	経済と経営学部 言語と文化学部 科学技術学部 芸術と人文科学部 公共政策と社会変革学部 国際学とグローバル科学部 文化遺産の保存と管理学部 *留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。		
学部/専攻	人文科学部 *留学中に所属した学部/専攻を記載してください。		

2. 週間スケジュール

① 2024 年 9 月～2025 年 3 月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	イタリア語スピーキング (A1)		イタリア語スピーキング (A1)		イタリア語スピーキング (A1)
午後		イタリア語(文化)		イタリア語(文化)	

② 2025 年 3 月～2025 年 7 月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前					インターンシップ
午後		CLA (English for B2 learner)		CLA (English for B2 learner)	

3. 履修内容

科目	イタリア語 (A1)		
履修期間	第一学期	単位数	6
授業内容／形態	教科書を使った対話形式 週 3 回 初学者向けの授業		
成績	22/30		
YCU 振替予定	科目	なし	
	単位数		
	担当教員		

科目	CLA (English B2)		
履修期間	第二学期	単位数	対外授業なのでなし
授業内容／形態	教科書を使った対話形式 週 2 回 B2 学習者対象の授業		
成績	81/100		
YCU 振替予定	科目	なし	
	単位数		
	担当教員		

科目	PRACTICUM/STAGE Mitsubishi internship		
履修期間	第二学期	単位数	3
授業内容／形態	計六回のワークショップと毎週一回の会議にて構成 最後のビジネスピッチと毎週提出する会議の振り返りシートで評価		
成績	Approved		
YCU 振替予定	科目	なし	
	単位数		
	担当教員		

<総括>

(1) 全体的な感想

*留学生生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800 字以上)

イタリアでの生活を通じて、私は広い視野と新しい環境への適応力を養い、語学力や歴史理解を深めた。特に、多様なバックグラウンドを持つ人々と寮で生活を共にした経験は、日本の生活が世界のごく一部であることを実感させた。世界には宗教や価値観の違いがあり、それらが文化的衝突や共存の模索につながっていることを肌で感じた。

第一の学びは、異文化理解である。イタリア人の生活様式に適応するだけでなく、アフリカ系や中東系の友人から現地文化を教わり、日本に対する認識を知る機会を得たことは貴重だった。ヨーロッパでは国籍が異なる人々が英語を共通語として協働する姿を目にし、私自身もより深く世界を知るために語学学習への意欲が高まった。こうしたきっかけから、大学ではイタリア語・英語とインターンシップを中心に学んだ。第三言語としてのイタリア語は、日常の中で成果を実感できた瞬間が励みとなり、継続の原動力となった。インターンシップでは、カルチャーギャップを乗り越えながら協働する方法を実践的に学んだ。

第二の学びは、新たな生活環境への対応力である。日本の常識が通じない中で、自分のやりたいことを実現するために、お金や時間、周囲へのアプローチ方法を工夫する必要があった。特に、就職活動と大学の授業をどう両立させるか、イレギュラーな予定が入りやすい中で旅行を計画する方法、そして限られた資源を何に優先的に使うかを日々判断した。こうした経験は負荷が大きかった一方で、自分の行動力と判断力を大きく鍛えた。しかし、後悔もある。イタリアでは事前に決めた事に執着するあまり、柔軟性が失われた瞬間も数あった。現地の人との人間関係を構築する中で、彼らからの誘いを、こうした目標への執着から断る事もあった。多くの制約の中で、いっぱいになり、冷静で俯瞰的に物事を見れない事は今後の課題と感じる。

以上の二つの学びは、今後新たな環境に飛び込む際にも、柔軟に適応し価値を生み出すための土台となっている。

(2) 今後の展望 *この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400 字以上)

イタリアでの生活は、世界への扉を開き、自分の好奇心と原動力の源となった。一種、自分の素地を形成する経験であり、この感情を大切に今後も異文化交流を続けたいと考えている。特に、寮で多様な文化背景を持つ人々と生活を共にし、日本の常識が通じない環境で過ごす中で、柔軟な適応力と異文化理解を培った。また、国籍の異なる人々が英語を共通語として協働する姿に触れ、グローバルで活躍するという目標も明確になった。その達成のため、語学学習の継続と国際的なコミュニティへの参加を続けたい。さらに、限られた資金や時間をどう配分するかを常に考え、行動に移す経験は、社会人としての判断力向上にも直結する。また、インターンシップで、現地学生と摩擦を乗り越え、ビジネスピッチをやり切った経験は、国際的に仕事をする中で一助になると信じている。今後は、この適応力・判断力・語学力を基盤に、多様な人々と信頼関係を築きながら国際的な価値創造に貢献していく。

(3) 後輩へのアドバイス *留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400 字以上)

環境や状況から留学をためらう人もいるでしょう。しかし、留学は新しい視点と可能性を与えてくれる大きなきっかけです。私は一般的な三年ではなく四年で行くか迷いましたが、思い切って決断し、今では「行ってよかった」と心から思います。新しい街を歩き、異なる文化に触れ、世界中の友人と出会うたびに、自分の中の世界地図が広がっていく感覚がありました。

もちろん最初は不安もありますが、それはすぐに「発見の連続」に変わります。日常の買い物も、授業も、旅行も、すべてが学びであり刺激です。困った時は現地の友人や日本からのサポートも受けられます。留学を決めたあなたを、多くの人が応援してくれます。

国や都市の選び方も楽しみのひとつです。大学で学べる内容だけでなく、文化や人柄、言語、現地の留学生コミュニティなど、自分の「こんな経験をしたい」という希望から逆算して選んでください。留学は、未知の世界を自分の足で歩き、新しい自分に出会える特別な時間です。迷う気持ちも含めて、その一歩を踏み出してみてください。